

平成 27 年度 発達障害理解推進拠点事業
成果報告書（概要版）

実施機関名（学校法人聖公会北海道学園）

1. テーマ

発達障害に関する職員の理解を深めると共に保育力を高めること及び障害児保護者と各支援機関との連携強化を図る。また、障害児保護者の相談により、アドバイスをし、必要に応じて他機関の求めに応じることのできる職員を1名養成することをテーマとする。

2. 問題意識・提案背景

当園の所在地は、平成 26 年 3 月 31 日現在の人口が、23,681 人の地方の小都市である。本市に住む人々にとって、特に障害児およびその保護者が教育、福祉、行政などの公的なサービスを受けようとする場合に困難が伴うことがある。一つの例として、療育相談が可能な病院を受診しようとする場合や、障害の判定を受けようとする場合には他市町に出向かなければならないことである。さらに中央の都市部では既に一般的に周知されていることが当地では必ずしもそうではないことがある。障害に対する理解、障害の早期発見、早期対応などに対する理解がそれであり、この点の理解推進が喫緊の課題である。また、関係諸機関、諸施設との連携および障害児（者）の会等との情報交換も更なる進展が願われるところである。このような地域の状況にあつて、3 才から 5 才の子供が生活する場である幼稚園の職員が発達障害児と保護者への援助者としての役割を担うことができるか否かは極めて重要なことである。そのため、職員が発達障害についての理解を深めると共に障害に関する知識と技能を身に付けていかなければならないと考えた。また、幼稚園の役割としては関係諸機関との連携強化を図っていくことが求められている。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
学校法人聖公会北海道学園	もんべつようちえん 紋別幼稚園

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）

4. 拠点校における取組概要

(1) 職員の理解推進

障害児に対するマインド（考え方）とスキル（技能）習得のため、月に一度（年 10 回）職員全員でのケーススタディを行っている。特に、障害児担当職員 2 名は、毎月のケーススタディに際して「園での様子」「お家から」「全保育者留意点」の 3 つのテーマで月間レポートを作成し、ケーススタディ資料として提出する。障害児担当職員はこの資料に基づいて説明し他の職員と意見を交換する。報告の一例として「障害児が瞬間的に両手を合わせた時は、～をして欲しいという合図である。」などがある。また、障害児の保護者から面談希望がある場合は最優先とし、時間と場所を作って面談している。その主な内容は、我が子に障害があるのでないかという不安と判定機関で障害があると言われた時の動揺と将来の不安についてであった。

(2) 関係機関との協働

各支援機関においても協働が大切であることの認識は共通していることから、実際に協働することを目指した。特に、当園の園児の支援に重点を置いての協議会の開催と協働機会の実現を積極的に行った。

(3) 障害児（者）保護者の会への支援

障害児（者）保護者の会は、支援を必要としている人たちの集まりであると同時に我が子に障害があるかも知れないと不安に思っている保護者や障害があることを認められないでいる保護者のよき支援者となることが可能である。そのため「研修と交流の会」を開催し相互の交流を図ることにした。また、交流の別の形として世界自閉症啓発デーのライトアップブルーの実現を目指した。

5. 主な成果

(1) 職員の理解推進

① ケーススタディによって、障害児に対する支援課題と、保育者の果たすべき具体的な役割が明確になり具体的な対応を行うことができるようになった。また、幼稚園が主催して行った研修会の他、支援機関と共同で開催した協議会、研修会、学習会、ケーススタディなどに通算して 7 回参加して意見を述べた。そのことによって障害児担当職員の理解が進み他機関の求めに応じて意見を述べるなどができるようになった。また、障害児担当職員を通して他の職員への横展開が行われ、職員全体の理解も進んだ。

② 職員の理解が進んだ結果、保護者からの面談希望が増えた。2015 年度中は、3 名の保護者と延べ 8 回の面談を実施した。その主な内容は、就学に向けての心配な気持ちを聞いたこと、判定機関でもある病院を受診して障害があることを告げられ動揺する不安な気持ちを聞いたことなどである。

(2) 関係機関との協働

支援事業所との協議を 2 回、保健センターとの協議を 1 回、養護学校との協議を 1 回、療育センターとの協議・協働を 4 回、養護学校との協議を 1 回、市役所の担当部課との協議 1 回、美幌病院療育支援事業担当との協働 1 回を

実施した。(2者、3者で行ったものもそれぞれ1回と数えた。)

この協議、協働によって関係機関との関係が深化した。

(3) 障害児(者)保護者の会への支援

今回取り組んだことの一つは「研修と交流の会」を開催したことである。

研修の部分では、障害児(者)保護者の会のメンバーから、我が子が障害児であることがわかった時のこと、それから現在までの間に体験したこと、そしてやがて将来への希望を持った時のことなどが話された。また、交流の会の部分では、不安の中にいる障害児保護者との交流が進んだ。このことを通して、語る側、聞く側とも、自分一人ではないことを知る機会になった。

「研修と交流の会」には障害児保護者の会のメンバー2名、小学校の教師2名、療育機関関係者4名、市議会議員1名、障害児保護者6名、園児保護者2名、一般1名、幼稚園職員14名、合わせて33名が参加した。

また、2016年4月2日の世界自閉症啓発デーには関係各位の協力により「オホーツクタワー」のライトアップブルーが行われた。

6. 今後の課題と対応

(1) 職員の理解推進

2015年度は障害児担当の職員2名を任命し、スキルとマインドの向上を目指して行い一定の成果を上げたが、今後は他の職員への横展開が重要になる。そのために、さらに4名の職員を障害児担当に任命し、レポートを提出してもらいケーススタディをすることにした。

また、2015年度の1年間を通して現場で訓練をしてきたチームミニストリーによって健常児、障害児と一緒に生活する保育を展開していく予定である。

(※チームミニストリー：担当職員1人がすべての責任を負うのではなく、職員全員が関わっていく保育展開法)

(2) 関係機関との協働

市内の各機関との協働によって初期の関係作りが行われ、それぞれの機関が互いの役割を認識し、協働の大切さを確認し合った。今後は更に深い支援内容に踏み込んで障害児支援体制を充実していく必要がある。そのためには保育者の能力向上が重要であると考えている。

(3) 障害児(者)保護者の会への支援

このテーマについては、一応の成果を見たと考えているところであるが、更なる支援として、ペアレント・メンター実施への協力と世界自閉症啓発デーのライトアップブルーを継続実施していくことであると考えている。

7. 問い合わせ先

組織名：学校法人聖公会北海道学園

- (1) 担当部署 紋別幼稚園
- (2) 所在地 北海道紋別市花園町2丁目17番地
- (3) 電話番号 0158-23-2366
- (4) FAX番号 0158-23-2366
- (5) メールアドレス monyou@carol.ocn.nr.jp